



日本政府：人道的地雷対策活動に 8300 万米ドルを支援

(ニューヨーク・4月25日) 国連地雷対策サービス部 (UNMAS) は、日本政府からの国連地雷対策支援信託基金への 830 万米ドルの拠出を歓迎致します。この日本からの支援は、アフガニスタン、イラク、ソマリア、南スーダン、スーダンそしてシリアで UNMAS が行う人道的地雷対策活動を可能にします。日本は当信託基金への最大の拠出国のひとつであり、2010年以降では1億4000万ドルに及ぶ拠出を行っています。財政支援に加え、日本からの人員提供により UNMAS の活動能力が強化されています。

UNMAS 部長のアニエス・マカイユは、「国連は、日本政府そして国民の皆様からの地雷対策に対する継続した支援に心より感謝いたします。」と述べ、「日本からの政治的、財政的そして人的な支援によって、UNMAS はより強固で効果的な活動を行うことが可能になりました。日本からのこのような支援のおかげで、UNMAS はこの困難な時代にも対応でき、紛争の影響を受けた何百万人もの人々のニーズに応え、紛争の影響を受けた国々が自国の地雷対策に必要な活動を可能にする手助けをすることができるようになりました。」と述べました。

国連が今年初めにジュネーブにて立ち上げた「地雷関連プロジェクト・ポートフォリオ2019年度版」においても強調したように、人道的地雷対策セクターの必要性は増加し続けています。ポートフォリオには19か国の146のプロジェクトが含まれ、合計で5億800万ドルの資金が必要とされています。現時点で確保されている資金は1500万ドルにとどまり、爆発性危険物の除去や危険回避教育、被害者とその地域社会への支援のための資金が依然として必要とされています。

「地雷関連プロジェクト・ポートフォリオ2019年度版」については[こちら](#)をご覧ください。

<本件に関するお問い合わせ>

Kurt Chesko,
Donor Relations Officer, UNMAS
Email: chesko@un.org